

〔戊〕溶解性石炭酸一瓶、此瓶ニハ、剝離セザル様、表箋ヲ貼シ、注意ス可キ石炭酸適當ニ稀釋シ、外用ニノミ供用「ト明記シ、密栓ヲ施コシ、且ツ、十五瓦及ビ三十瓦ヲ量リ得ベキ液量計ヲ添フ可シ、又、檢温器ハ、必ズ携帯ス可ク、イルリガートルハ一里埜兒ノ容量ヲ有シ、半里埜兒ノ部ニ劃線ヲ記シ、護謨管ハ、一乃至一、五迷ニシテ、硝子製嘴管ヲ具フ可シ、但シ、亞鉛製イルリガートルヲ用ユルモ亦佳ナリ。

五、産婆ハ、必ズ其所用ノ器具ヲ清潔ニ保チ、石炭酸ノ如キモ能ク之レヲ蓄ヘ、他ノ小兒等ノ之レニ近ヅクモ害ナカラシム可シ。

六、妊婦、産婦及ビ産婦ノ内檢査ヲナス可キ手及ヒ前膊ヲ暴露シ、清潔ニスル「トナケレバ、之レヲ施コス可カラズ、内檢査ヲ施コスカ、若クハ生殖器ノ創傷ヲ處置セント欲スルノ際ハ、袖ヲ上膊ノ中部以上ニ掲舉シ、此ヨリ以下ニ降ラシム可ラズ、此ノ如クニシテ、爪鉈子、刷毛、石鹼ヲ用ヒ、微温湯可及的、一回煮沸セシメタル者中ニ善ク洗ヒ、

清淨ナル手巾ニテ拭去シ、次ニ同一ノ方ニヨリ、被檢者ノ外陰部、其近傍ヲ洗滌シ、脱脂綿又ハガトーゼヲ以テ之レヲ拭フ可シ。

若シ産婦ナルトキハ、以上ノ外、可及的、清潔ニシテ豫カジメ温メタル褥襪及ビ上敷敷布等ヲ用ヒ、産床及ビ産褥ヲ作ル可シ。

上項ノ準備終ラバ、石炭酸中ニ於テ、嚴ニ手ノ消毒法ヲ行ヒ、然ル後、始メテ妊婦、産婦若クハ産婦ノ檢査ヲ施コサン「トヲ要ス。

七、總テ産婆ノ用ユ可キ石炭酸ハ、常ニ次ノ方ニヨリテ調製ス可シ、石炭酸ハ、第四項ニ記セル者ヲ取り、其三十瓦ヲ、一里埜兒ニ混ジ善ク攪和シ、石炭酸ヲシテ水底ニ沈澱セシムル「トナカラシム可シ、最良ナルハ、栓塞セル瓶中ニ入レ、強ク震盪シ、且ツ、數回轉倒セシムルニ在リ、又、鉢中ニ混和セント欲セバ、久シク之レヲ攪拌ス可シ、之レニ反シ、石炭酸ヲイルリガートル中ノ水ニ注加スルハ不可ナリ、即チ、此ノ如クスルトキハ、溶解スル「トナクシテ、直チニ流出シ、且ツ、體部ニ觸レテ、腐蝕作用ヲ惹起スルモノナリ。



八、產婦ニハ、第一回ノ検査ヲ施コスニ先ダチ、二里埤兒ノ石炭酸溶液ヲ作ル可シ。此石炭酸液ヲイルリガートルニ盛ルニ先ダチ、嘴管、臍帶剪刀、カテーテルヲイルリガートル内ニ入レ、護謨管ヲ接合シ、而シテ後チ溶液ヲ滿タス可シ。イルリガートルヲ用ヒテ灌注セント欲セバ、内ニ貯ヘタル諸器ト、凡ソ半里埤兒ノ石炭酸トハ、他ノ容器ニ移サンコトヲ要ス。又、器械ハ、一回使用セルノ後チ、石鹼ニテ洗ヒ、乾カシテ、再ビ石炭酸液中ニ入レ、以テ處置ノ終ルニ至ル可シ。石炭酸溶液ノ殘リ一里埤兒半ハ、之レヲ二ツニ等分シ、一ハ、第一回ノ検査ニ當リ、手ノ消毒ニ用ヒ、他ハ、次回ノ検査ノ前後又ハ陰部ノ創傷ニ觸ル、ノ際手ノ消毒ニ供用ス可シ。

九、既ニ分娩ヲ終レルモノニ在リテハ、產婆ハ、臥床ヲ調ヘタルノ後、一回煮沸セル微温湯ヲ以テ外陰部ヲ洗滌シ、脱脂綿若クハガーゼヲ以テ之レヲ拭去スベシ。

十、產婆ノ、腔内灌注ヲ施コスハ、通例、醫師ノ指定ニ從フ可シト雖ドモ、

產婆教科書ノ殊ニ規定セル場合ニ於テハ、石炭酸水ヲ用キテ自ら之ヲ行フ可キモノトス。

十一、產婆ハ、必要アルニ非ラザレバ、產婦ノ陰部ニ觸レ、又ハ惡露ニ汚染セラレ、若クハ化膿セルガ如キ體部ニ觸接スルコトナク、且ツ、之レニ類似セルモノ假ヘバ潰瘍若クハ死産兒、汚染セル裸體ノ如キモノヲ避ケンコトヲ要ス。其他、傳染性諸病即チ產褥熱、膿毒症、敗血症、子宮及ビ腹膜ノ炎症、實布の里、梅毒、淋疾、腸窒、扶斯、虎列刺等ノ患者ニハ、可及的、近接セザランコトヲ務ム可シ。

十二、產婆若シ、產婦ノ陰部又ハ惡露ニ汚染セル物品ニ其手ヲ觸レシムルトキハ、第六及ビ第八項ニ説述セルガ如ク、第一回ノ検査ニ準ジ、綿密ニ洗滌ス可シ。

十三、產婆若シ、化膿又ハ惡臭アル惡露ニ觸レ、或ハ第十一項ニ記セル諸傳染性患者ノ手若クハ器具ニ接觸セルトキハ、第十二項ニ從テ洗滌シ、且ツ、少ナクモ五分間、石炭酸水中ニ消毒シ、同時ニ使用セル



器械ハ、先ヅ洗滌シ、次ニ煮沸シ、後チ之レヲ石炭酸水中ニ浸漬ス可シ。

十四、産婆若シ、産褥熱、敗血症、膿毒症、子宮内膜炎、丹毒、質扶的里、猩紅熱、痘瘡、麻疹等ノ傳染性患者若クハ此ノ症ノ疑ヒアル病者ノ家ニ至レルコトアラバ、其衣服ヲ交換シ、且ツ第十二項ニヨリテ嚴ニ消毒法ヲ施コシ、然ル後チニアラザレバ、妊婦、産婦及ビ産婦ヲ検査ス可カラズ。

十五、産婆ノ家宅ニ前項ノ諸症若クハ其疑アル疾病ヲ生ズルカ、若クハ、産婆ノ處置セル産婦ニシテ、産褥熱、子宮炎、腹膜炎、又ハ其疑アル諸症ヲ發スルトキハ、該産婆ハ、行政廳ノ豫防規則ニ服シ、其業務ヲ停休スベキモノトス。

十六、産褥熱、子宮炎、腹膜炎若クハ此諸症ノ疑アル患者ヲ處置セバ、其間ハ、全ク妊婦ノ検査ヲ禁ジ、産婦及ビ産婦ハ、緊急ノ場合ニ於テノミ之レヲ検査スルヲ得ベシ。但シ此際、先ヅ全身浴ヲ取り、石鹼ヲ以テ

善ク洗滌シ、新衣ヲ服シ、而シテ後チ、第十四項ニヨリテ消毒法ヲ施コスベシ。

十七、産婆、第十四項ニ記セル諸病、若クハ其疑アル患者ニ接セル際ニ着セル所ノ衣服ハ、之レヲ他ノ者ト混ズルコトナク、直チニ之レヲ洗淨煮沸スルカ、若クハ蒸氣消毒法ヲ施コスニアラザレバ、他所ニ携帯ス可ラス。

十八、産婆ハ死體及ビ死體ノ衣服ニ接觸スルコト勿レ、若シ、之レニ觸ル、コトアラバ、第十六項ニ從テ所置センコトヲ要ス。

**〔第八三五項〕新潟縣ノ産婆ニ關スル規定** 著者ノ郷國タル新潟縣ニ於テハ、産婆規則ノ發布ト、一般ノ進歩トニヨリ、曩ニ他府縣ニ率先シ、縣令ヲ以テ規定セル所アリ、之レヲ次ニ掲出スベシ。

**◎産婆組合設置規則**

(新潟縣令第三十八號、明治三十三年四月二十日發布)

第一條 産婆ハ組合ヲ設ケ、左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムベシ。



- 一、業務ニ關スル學術ヲ研究スルコト。
- 二、智識ヲ交換シ、陋習ヲ矯正スルコト。
- 三、業務上ニ關スル規則ヲ講究スルコト。
- 第二條 組合ノ區域ハ、郡市長之レヲ撰定ス。
- 第三條 産婆ハ此ノ組合ニ加入シ、故ナク集會ニ缺席スルヲ得ズ。
- 第四條 組合ハ、毎月一回以上集會スベシ。  
但シ、已ムヲ得ザル事情アルトキハ、郡市長ノ認可ヲ得テ休會スルコトヲ得。
- 第五條 組合ニハ、左ノ役員ヲ置クベシ。  
一、會頭 一名  
二、幹事 若干名
- 第六條 會頭ハ醫師ニ囑託シ、幹事ハ組合員ヨリ公撰シ、組合ニ關スル諸般ノ事務ヲ處理セシムベシ。
- 第七條 組合ニ於テハ、明治三十二年勅令第三百四十五號産婆規則施行前本縣ニ於テ許可シタル産婆ニ對シ、業務上必要ノ講習ヲナスベシ。

- 第八條 組合ニ於テハ、規約ヲ定メ、縣廳ノ認可ヲ受クベシ。
- 第九條 集會期日及ビ場所ハ、毎會十日以前ニ、縣廳ニ報告スベシ。  
但シ、期日、場所ヲ一定シ置クモノハ、變更シタルトキノ外、報告ニ及バズ。
- 第十條 組合ニ關スル一切ノ費用ハ、組合産婆ノ負擔トス。
- 第十一條 組合ハ、郡市長之ヲ管理ス。
- 第十二條 郡市長ハ、組合區域役員ノ住所、氏名並ニ組合人員ヲ縣廳ニ報告スベシ。其變更、増減シタルトキモ亦同ジ。
- 第十三條 組合ヨリ、縣廳ニ差出ス書面ハ、總テ郡市役所ヲ經由ス可シ。
- 第十四條 第三條ニ違背シタル者、第七條ノ講習ヲ受ケザル者及ビ組合ヲ設ケザル者ハ、一圓九十五錢以下ノ科料、又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス。



附 則

第十五條 本則發布前認可ヲ得タル組合規約ニシテ、本則ニ抵觸セザルモノハ、尙ホ其ノ効ヲ有ス。

◎新潟縣令第三十九號

(明治三十三年四月二十日發布)

産婆ハ、常ニ其ノ業務ニ必要ナル器具物品ヲ整備シ置クベシ。

産婆ハ、左式ニヨリ、其ノ取扱タル分娩成績表ヲ製シ、毎年二回(七月、十月)五日限り、所轄警察官署又ハ駐在巡查ニ差出ス可シ。

産婦ノ姓名		分娩成績表		自一(七)月 至六(十二)月	
年 齡	第何回分娩	分娩ノ種類	産婦ノ發熱又ハ疾病	産兒ノ男女	産兒ノ健否及死産

「第八三六項」産婆ノ職權、一 産婆ハ、疾病又ハ異常ノ存セザル限りハ、其學識ト技術トニヨリ、各種ノ分娩ヲ處置シ、母兒兩者ノ生命身

體ヲ保全セシムルノ權利アリ、加之、

「二」法庭ニ出テ證人トシテ事實ノ陳述ヲ命ゼラル、ニ當リ 場合ニヨリ、其命令ヲ拒絕スルコトヲ得ベシ、即チ我刑事訴訟法第三編第三章第六節證人訊問ニ就キテ之レヲ見ルニ、次ノ如シ。

◎第六節 證人訊問

第二百二十五條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ、證言ヲ拒ムコトヲ得。

第一、官吏、公吏タリシ者、其職務上、默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルトキ。

第二、醫師、藥商、穩婆、辯護人、公證人、神職、僧侶、其身分職業ノ爲メ、委託ヲ受ケタルニ因テ知リタル事實ニシテ、默秘ス可キモノニ關スルトキ。證言ヲ拒ム者ハ、拒絕ノ原因タル事實ヲ開示シ、且ツ、之レヲ説明ス可シ。

又「民事訴訟法第二編第一章第六節、人證」ニ於ケルモノハ、即チ左ノ如シ。

◎第六節 人 證



第二百九十八條 左ノ場合ニ於テハ、證言ヲ拒ムコトヲ得、

第一、官吏、公吏、又ハ官吏、公吏タリシモノガ其職務上、默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルトキ、

第二、醫師、藥商、穩婆、辯護士、公證人、神職及ビ僧侶ガ其身分又ハ職業ノ爲メ、委託ヲ受ケタルニ因リテ、知リタル事實ニシテ、默秘ス可キモノニ關スルトキ、

第三、問ニ付キテ、答辯ガ證人、又ハ前條ニ掲ゲタル者ノ耻辱ニ歸スルカ、又ハ、其刑事上ノ追訴ヲ招ク恐レアルトキ、

第四、問ニ付キテ、答辯ガ證人、又ハ前條ニ掲ゲタル者ノ爲メ、直接ニ、財產權上ノ損害ヲ生ゼシムベキトキ、

第五、證人ガ、其技術又ハ職業ノ祕密ヲ公ニスルニ非ザレバ、答辯スルコト能ハザルトキ、

〔第八三七項〕產婆ノ罪惡 本書中、既ニ屢ニ述ブルガ如ク、產婆ハ、其地位、高尚ニシテ、業務上、種々ノ權利ヲ有スルモノナレドモ、若シ其ノ處置

スル所正シキヲ失スルトキハ、罪惡ニ陥リ、害ヲ社會ニ流シ、己モ亦、法律上ノ處分ニ服セザル可カラザルニ至ル。今日本刑法、第三編第一章、第八節第十二節「及ビ」第四編「違警罪」ノ條項ヲ見ルニ、左ノ如シ。

◎日本刑法

第八節 墮胎ノ罪

第三百三十條 懷胎ノ婦女、藥物、其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ、一月以上、六月以下ノ重禁錮ニ處ス。

第三百三十一條 藥物、其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者モ亦、前條ニ同ジ、因テ、婦女ヲ死ニ致シタル者ハ、一年以上、三年以下ノ重禁錮ニ處ス。

第三百三十二條 醫師、穩婆又ハ、藥商、前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ、各一等ヲ加フ。

◎第十二節 誣告及ビ誹毀ノ罪



第三百六十條 醫師、藥商、穩婆又ハ代言人、辯護人、代書人、若クハ神官、僧侶、其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知リ得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ、誹毀ヲ以テ論ジ、十一日以上、三月以下ノ重禁錮ニ處シ、三圓以上、三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス、但シ、裁判所ノ呼出ヲ受ケテ、事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ非ラズ。

◎第四編 違警罪

第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ、一日以上、三日以下ノ拘留ニ處シ、又ハ、二十錢以上、一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス。  
(一乃至八、略ス)

九、醫師、穩婆、事故ナクシテ急病人ノ招キニ應ゼザル者、

「第八三八項」攔筆 以上、産婆ノ社會及ビ法律規則ニ關スルモノヲ舉グレバ、此ノ如シ、今ヤ、余輩ハ、筆ヲ此章ニ攔スルニ臨ミ、切ニ希望スル所ハ、各産婆ガ、外ハ其本然ノ技藝ヲ練磨シ、内ハ普通ノ學識ヲ修メ、以テ其品性ヲ高フシ、産婆、本來ノ地位ヲ明ラカナラシメ、進デ、我國産婆特有ノ氣風

ヲ發揚スルニ在リ、是レ吾人ガ一日モ忘ル、能ハザル所ナリ。

新訂 産婆學講本 大尾



28/10/25



明治三十一年一月十八日發行  
 明治三十四年八月十八日再發行  
 明治三十五年四月廿三日發行

版權  
 所有

著述者

高橋辰五



發行者

小立鉦四郎

印刷者

中村政吉

印刷所

報文社

發兌元

(電話) 二二三〇

南江堂書店

東京市本郷區湯島切通坂町八番地

正價金貳圓



發 賣 書 肆

東京市日本橋區通三丁目  
 全 市本鄉區龍岡町  
 全 市全區春木町二丁目  
 全 市神田區鍛冶町  
 全 市本鄉區春木町三丁目  
 大阪市南區心齋橋筋一丁目  
 全 市心齋橋筋博勞町  
 京都市寺町通二條下ル  
 金澤市片町  
 長崎市引地町  
 仙臺市名掛町  
 名古屋市本町三丁目  
 岡山市仲ノ町  
 廣島市鹽屋町  
 福岡市博多中島町  
 熊本市新二丁目

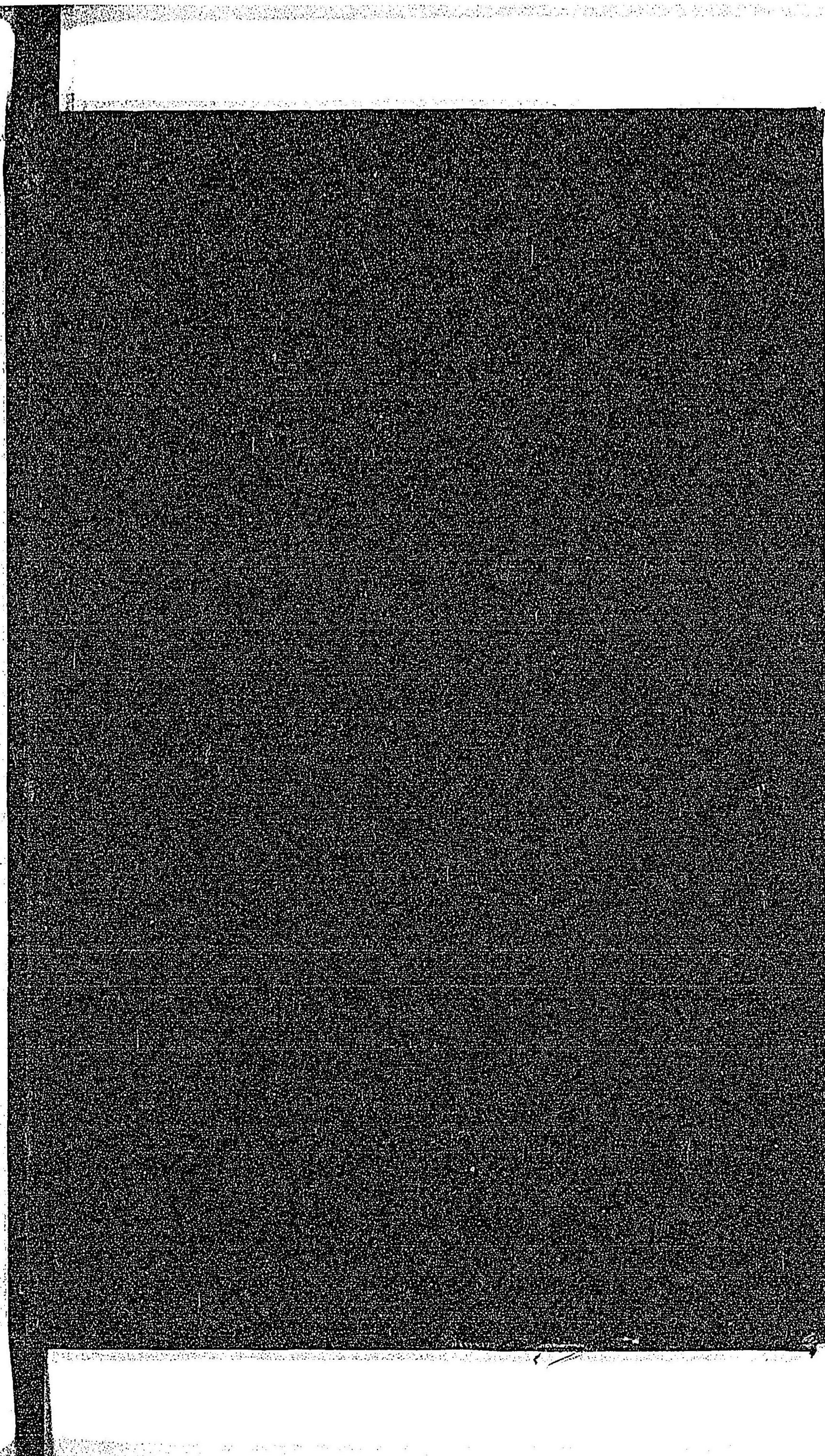
丸吐善堂書  
 半田屋書  
 朝香屋書  
 南江堂支  
 松村九兵衛店  
 丸善支  
 若林茂一  
 宇都宮書  
 安中集榮店  
 佐藤書  
 丸屋書  
 渡邊宗次郎店  
 積善館支店  
 長崎次郎店



56

60









059875-000-8

56-6口

産婆学講本 (増補改訂三版)

高橋 辰五郎 / 著

M35

CBI-0125





